

第五歌 オデュッセウス、筏を作りカリュプソの島を出る

[ヘルメス](#)によって[オギュギア](#)の島の女神[カリュプソ](#)に、[オデュッセウス](#)を帰国させる神々の決定が伝えられた。[オデュッセウス](#)は筏を作り海へ出た。[ポセイドン](#)が大波を送って筏をバラバラに砕くが、彼は女神[レウコテエ](#)に与えられたローブを着て泳ぎつづけ、なんとか陸を発見し上陸した。

内容

[ヘルメス](#)が[カリュプソ](#)に会う 神々の会議で[カリュプソ](#)の所に足留めされた[オデュッセウス](#)の帰国が決まった。[ヘルメス](#)は[カリュプソ](#)の許へ遣わされ、その決定を伝えた。[カリュプソ](#)は嘆くが、[ゼウス](#)の命なら是非もないと同意する。[カリュプソ](#)は[オデュッセウス](#)に筏作りを勧め、五日間かけて筏が作られた。



([画像/オデュッセウスとカリュプソ](#))

オデュッセウス故郷へ向け船出する [オデュッセウス](#)は出発する。大熊座を左手に見つつ、東へと進み続けた。出発から十八日目、旅から帰ってきた[ポセイドン](#)が筏を見つけた。怒った[ポセイドン](#)が大波と大風を送ると、[オデュッセウス](#)の筏はボロボロになった。海の女神[レウコテエ](#)がその様子を見て、[オデュッセウス](#)を憐れみ助言する。巨大な波が打ちつけて、筏はバラバラに砕け、[オデュッセウス](#)は海に飛び込んだ。

島に漂着する [アテナ](#)の加護もあって、どうにか泳ぎつづけて三日目に陸の前に着いたが、岩礁と大波に阻まれて上陸できなかつた。回りこんで穏やかな河口を見つけて、そこからなんとか上陸に成功した。河辺にとどまるか森に入って寝るかで悩み、森を選んだ。灌木の茂みにもぐり込んで、落ち葉で身を包み、[オデュッセウス](#)は眠りについた。

関連

人名

[ヘルメス](#)...ゼウスの決定を[カリュプソ](#)に伝えた

[カリュプソ](#)...神々の命令により、愛人[オデュッセウス](#)を送り出す

[オデュッセウス](#)...[オギュギア](#)の島を発って、故郷イタケへ向かう

[ポセイドン](#)...[オデュッセウス](#)に大波と風を送り苦しめる

[レウコテエ](#)...又の名をイノ。海の女神。海上でオデュッセウスを助ける

地名

[オギュギア](#)
[ステリア](#)

[前へ](#) ... [オデュッセイア](#) ... [次へ](#)